



発行所  
**大阪府農業会議**  
 大阪市中央区農人橋2-1-33  
 JAバンク大阪信連事務センター3階  
 電話 直通 06(6941)2701~2  
<http://www.agri-osaka.or.jp>  
 発行人 中谷 清

明けまして  
 おめでとう  
 ございます



令和2年元旦  
 大阪府農業会議  
 役員職員一同

年金の  
**お受け取りは**  
**JAで**

JAバンク大阪(JA/信連)

**ビツグマウス**  
 大子でネズミ払い  
 高倉とんど保存会  
 寝屋川市高倉の田んぼに  
 現れた巨大なネズミの正体  
 は、高倉とんど保存会が  
 作った「干支とんど」。

CAD(設計支援ツ  
 ル)で設計し、地元産の青  
 竹で骨組みして、稲わらを  
 編み輪郭を形作る。18人掛  
 かりで全長6メートル、幅2メ  
 ートル、高さ2メートルの「ビツグマウ  
 ス」が出来上がった。

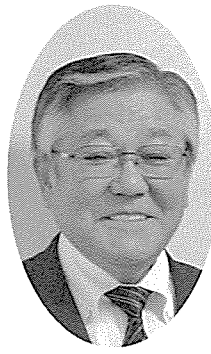
地域の伝統行事を子ども  
 達に知ってもらい、後世に  
 残そうと、約40年前から途  
 絶えていた「とんど焼き」  
 を復活させたのが平成22  
 年。もっと子どもに喜んで  
 もらおうと、辰年にゴジラ  
 を作ったのが平成24年、干  
 支とんどの始まりだ。

設計・デザインなどを手  
 掛けた小林伸行さんは、  
 「米農家にネズミは大敵。  
 小ネズミを追い払ってくれ  
 たら」と笑う。

干支とんどは1月13日の  
 「高倉とんど焼き」で点火  
 予定。  
 (田村)

# 新年のごあいさつ

大阪府農業会議会長 中谷 清



新年明けましておめでとうございませう。皆様方におかれましてはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、施行から4年目を迎える改正農業委員会法の下、昨年4月より順次新制度で2回目と

なる改選が行われており、本年には府内38の農業委員会で改選を控えています。令和2年度には農業委員会法の5年後見直しに「農地利用の最適化」推進について、具体的な成果が求められています。

本府においては、都市農業振興基本法を踏まえた「大阪型農地利用の最適化」の推進を図るため、関係機関・団体の協力を得ながら、農業委員、推進委員

が地域の農地利用についての合意形成を進めることにしております。

市街化調整区域においては、昨年に成立した「農地中間管理事業の推進に関する法律等の一部を改正する法律」に基づき、農地所有者等の意向把握、人・農地プランに代表される地域の話し合いへの参加等の取り組みを各地区で進めているところでございます。

一方、市街化区域にあつては、改正生産緑地法に基づく生産緑地の面積要件の緩和に関する条例が府内の約8割の市町村で制定され、特定生産緑地の指

定に向けた所有者への情報提供も各地で進められているところでございます。さらには、新規就農者による都市農地の貸借の円滑化に関する法律を活用した事例も生まれており、今後このような取り組みが各地で展開されるよう推進して参りたいと存じます。

また、農政の中長期的な羅針盤である「食料・農業・農村基本計画」について、本年3月に新たな基本計画を閣議決定される予定となっております。

農業会議といたしましては、引き続き、関係機関・団体との連携を密にして、大阪農業の実

態に即した施策の実現に向けた取組みを強化して参りますので、よろしくお願いいたします。

以上のような情勢を踏まえ、農業委員、推進委員の皆様方におかれましては、地域農業者の代表、地域の世話役としての活動をより一層充実いただき、本府農業の振興に格別のご尽力をお願いいたします。

結びに、皆様方にとりまして本年が希望に満ちた佳き年となりますようご祈念申し上げます。新年のあいさつといたします。

# 新春を迎えて

大阪府 知事 吉村 洋文



新年あけましておめでとうございませう。旧年中は、大阪府政の推進にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

かしながら、大阪の成長をさらに加速させ、府民の皆さまの豊かさにつながるよう、府政を前に進めてまいりました。

その結果、昨年は、G20大阪サミットの成功や、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録の実現など、世界の中で大阪の存在感を示す基盤を築くことができました。

水なすやデラウェアなど、延べ115品目の大阪産(もん)食材が採用され、世界に向けた大阪の食の魅力発信につながりました。

今回のサミットでの大阪産(もん)認知度向上を絶好の機会ととらえ、大阪産農産物のさらなる魅力発信に取り組んでまいります。

さて、東京オリンピック・パラリンピックが開催される今年、大阪にとつても、未来を決めるターニングポイントとなります。日本の将来に大きなインパクトを与える2025年大

阪・関西万博の準備に万全を期さなければなりません。

この大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現には、人々の健康を支える「食と農」の発展が不可欠です。

人々に新鮮で安全・安心な農作物を提供し、生活に潤いやすらぎをもたらす農業・農空間を次代に継承し、発展させるため、本府としまして、「大阪府都市農業の推進及び農空間の保全と活用に関する条例」により、担い手確保や遊休農地の活用を推進するとともに、昨年7

月に施行された「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」に基づき、さらなる災害対応力の強化に取り組んでまいります。

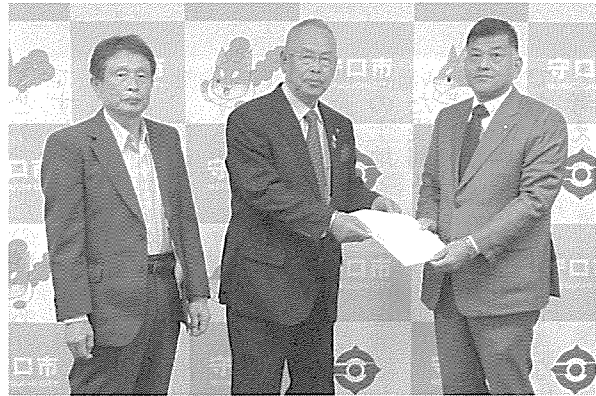
引き続き、農業委員会、市町村、大阪府みどり公社、JAなどの関係機関の皆様と連携し、様々な取組みを進めてまいりますので、一層のご理解、ご協力をお願いいたしますとともに、本年が皆様にとつて実りある素晴らしい年となりますよう祈念し、新年のあいさつといたします。

# 都市農業振興 基本計画策定を要望

## 守口市農委

守口市農業委員会(西口誠一会長)は12月2日、西端勝樹守口市長に対し、「守口市都市農業振興基本計画の策定についての要望」を、農業委員会法第38条に基づき提出した。

国及び府において都市農業施策の方向性が示された中で、守口市の都市農業を維持し、市民の意識やライフスタイルの変化に対応していくために、守口市の地方計画の策定を求めたもの。(田村)



西端市長(右)に要望書を提出する西口会長(中)と野内会長職務代理

# 食料・農業・農村基本計画で要請決議

## 全国農委会長代表者集会

全国農業会議所は11月28日、東京都・メルパルクホールで全国農業委員会会長代表者集会を開いた。大阪府からは各地区農委連合会会長、農業会議役員など13人が参加した。

集会は1部と2部に分かれ、第1部では、活動事例報告・記念講演・申し合わせ決議を実施。活動事例報告では、広島県三次市農委の橋本会長、宮城県角



運営委員長報告をする中谷全国農業会議所副会長

次市農委の橋本会長、宮城県角

# 大阪市初の認定農業者誕生 4経営体を認定

大阪市は、12月9日、初めての「大阪認定農業者」認定式を行い、4経営体の認定農業者が誕生した。

全域が市街化区域で、ほとんどが小規模の兼業農家。農地は過去10年で約25％減少し、現在84％。今後も相続などでの減少が懸念されている。

「担い手の確保・育成」と「農地の維持・保全」を目標に掲げ、平成30年6月に「大阪市都市農業振興基本計画」を策定。また、昨年6月には、農業経営基盤強化促進法に基

田市農委の白戸会長職務代理、愛知県豊田市農委の橋本会長が「人・農地プラン」の実質化に向けた取組みについて報告。その後、全国農業会議所の澤畑専門相談員が「人・農地プランの実質化を確実に進めるために」をテーマに講演した。

これらの報告と講演を踏まえ、「地域の農地を活かし、担い手を応援する全国運動」のさらなる推進のための申し合わせ

づく、「大阪市農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」を策定し、認定農業者制度を7月に導入した。

認定式では、大阪市の柏木経済戦略局長より「この制度は、都市農業について、大阪市の農業の考え方を広めていく出発点だと考えている。認定者の方々にはその経営手法などで手本を担っていただき、大阪市の中心経営体として頑張っていたいただきたい」と挨拶。

その後、都市農地という消費地に近い利点を生かし、優れた農業経営を行っている4経営体が、局長より認定書を手渡され、今後の抱負を語った。

## 認定者のコメント

金田博充さん「周りの

決議、「情報提供活動」の一層の強化に関する申し合わせ決議、農業委員会の委員等の綱紀保持に関する申し合わせ決議がそれぞれ行われた。

第2部では、要請決議が行われ、新たな「食料・農業・農村基本計画」の策定等に向けた要請決議が採択された。(北川)

人の助けがあつて認定されたので、恥じないように農業発展に従事したい」

特定非営利活動法人街かど福祉(代表理事豊田みどりさん)

「大阪市内産しいたけの30%のシェアを目標に頑張りたい」

西野孝仁さん・勝博さん「な

にわ伝統野菜の栽培や、市民を巻き込んだ直売など行っているが、市場出荷だけではない方法で、市民に認めてもらえるような農業を模索していきたい(孝仁さん)」

大山元作さん「市内唯一の養豚家として、大阪市の農業発展に寄与できるように頑張りたい(代理・大山祐子さん)」(中島)

豊田みどりさん、金田博充さん

認定者の大山祐子さん(元作さん代理)、西野孝仁さん、豊田みどりさん、金田博充さん



前列右から、認定者の大山祐子さん(元作さん代理)、西野孝仁さん、豊田みどりさん、金田博充さん

# への期待

元号が平成から令和に移り、初めての新春を迎えた。担い手不足・高齢化、農産物価格の低迷、生産コスト削減などの諸課題は、引き続き大きなテーマとして掲げられている。こうした中でも、地域の担い手は力強い経営を展開し、新規就農者は経営の土台となる根を張ろうと試行錯誤している。新時代の担い手はどのような夢・目標を抱き、日々汗を流しているのか取材した。

## 都市農地貸借

### 自宅横の生産緑地で就農

泉南市・浅利和樹さん

「自宅の真横で農地を借りることができたのは、ありがたいですね」と話すのは、泉南市男里の浅利和樹さん(64)。昨年5月に同地区の生産緑地約12アールを、都市農地の貸借の円滑化に関する法律(以下、円滑化法)により借り受けた。

以前は知人の勧めもあり、民間企業に勤めながら0.6アールほどの土地で季節野菜を栽培していた浅利さん。もう少し面積を広げたいと考えていたところ、自宅横の農地が保全管理の状態であり、自分が耕作できないかと考えた。

一方、土地所有者からは貸付意向が出されており、農業委員会から円滑化法の活用を提案す

る運びへ。「円滑化法が施行されたものの近隣で事例がない状態だったので、手探りで手続きを進めたが、喜んでもらえて何より」と事務局。5月10日に農委における事業計画決定、同23日に市長による事業計画の認定がなされた。

夏はスナックエンドウ、トマト、ナス、冬はダイコン、ハクサイなど季節野菜を栽培し、近隣の直売所で販売している。

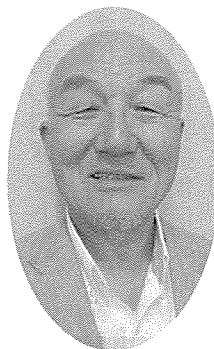
収穫・出荷を手伝う妻のたか子さんが「夫は時間があれば畑に出て、自宅の窓からもしよちゆう様子を見ている」と話すほど熱心だ。

「住宅地の近くで農地を借りることができる」と、世話もしや

### 同法のさらなる活用を期待

泉南市農委・中野会長

地区担当の中野吉次泉南市農業委員会会長は、所有者から「生産緑地を相続したが耕作が困難」と相談を受けており、浅利さんが借り受けを希望していることを聞いた際



に、同法の活用を提案した。貸借にあたっては、中野会長が浅利さんと面談も行い、借り受け後は、販路の紹介など経営面での支援も惜しまない。

同法については、「生産緑地も条件の良い農地ばかりではないが、都市部に住む借受希望者にとっては貴重な選択肢になるのではないかと期待を寄せる。」

(沼田)

すい。定年後に時間のある人は健康にもいいし、自分と同じように挑戦してみてもどうか」と話す浅利さん。今後の目標については「畑に出て土を触るのが本当に楽しく、収穫できると嬉しい。思ったよりも売れるので、これからはもっと気合を入れたい」と笑顔を見せた。

(田村)



「孫の情操教育にもきつといいですね」と話す浅利さん(中)

特集・新時代への期待

# 新時代

## 食と人の架け橋に 未来ある若者の応援も

岸和田市・花野眞典さん

誉など、年間を通じて約30品目の季節野菜を栽培している。

「活動を通じて食と人の架け橋になれば」と話すのは、岸和田市土生滝町で「くじらのペンギンハウス」を運営する花野眞典さん(41)だ。就農から約10年が経過し、現在は約90アールで春秋にリーフレタス、夏にズッキーニ、冬にニンジンなどの栽培を行っている。



「もっと食・農産物を身近に感じてほしい」と話す花野さん



「自分たちの姿を見て子どもたちが将来農業をやりたいと思えるような農園にしたい」と山本さん夫婦

モ(計45坪)に加え、ブルーベリーの栽培を始めたのは、眞土さんがアメリカで農業研修を受けていた時に食べたブルーベリーの味に感動したことがきっかけ。「お客さんにも採れたての美味しさを味わって欲しい」と13年前に2本の苗木から夫婦2人でスタート

近年、イチゴやトマトの観光農園を始める若手農家も地域で増えており、観光農園を始めた際の苦労を知る山本さん夫婦は、「夏にブルーベリー狩りに来るうちのお客さんが冬にはイチゴ狩りに行ってもらうなど、新規就農者の手助けが出来れば」と話す。

高齢化により遊休農地も出始めている地元で「空いている農地があればもっと経営面積を広げたい」と意気込む山本さん。農園の未来とともに、地域農業の将来を見据えている。(沼田)

## 農園と地域の将来を見据えて

富田林市・まーるいかんぱにー

「ブルーベリー畑まーるいかんぱにー」は、富田林市西板持にある約30坪のブルーベリーの観光農園。農園名は園主の山本

眞土(まさと)さん(37)、妻の留似(るい)さん(35)の2人の名前から名付けられたものだ。先代から引き継いだナス、キュウリ、エビイ

取り組みの特徴のひとつが「援農ボランティア」の受け入れだ。年間50〜60人程度がほ場を訪れ、農作業を体験している。ボランティアは府民や近隣の大学生、新規就農希望者などさまざまで、若年層が多い。自作のパンフレットには年代別農業従事者割合が記載され、高齢化・担い手不足に伴う遊休

農地増加の現状など、知識のおみやげ付きだ。また、社会貢献活動は幅広く、ボルダリングやコーフポールといったマイナースポーツの活動支援、自主製作映画に俳優として出演する文化的支援など、「若手を応援したい」気持ちから様々な支援活動に取り組む。

住み家をなくしたペンギンがくじらの上で生活する。そんなあつてはならない事を実現させないために「くじらのペンギンハウス」を誕生させた花野さん。「農産物を成長させるだけでなく、未来ある若者たちの大切な心と身体を育む手助けができれば」と話す。

(田村)

特集・新時代への期待

# 出会い大切に作る農業を実践

## 寝屋川市・南政輝さん

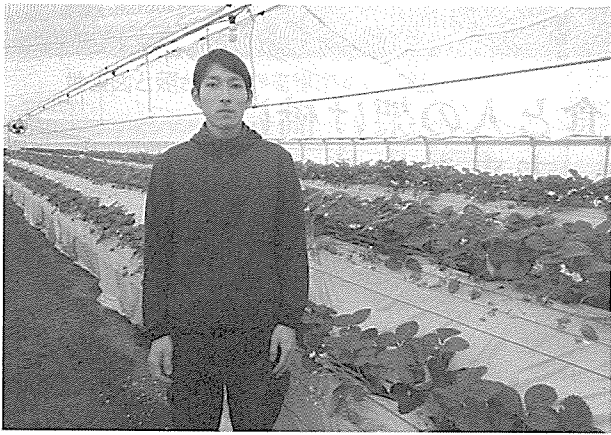
寝屋川市の住宅地にある南農園の南政輝さん(24)は、昨年11月4日、農園代表者で父親の保次さんの元で就農した。

南農園は、市内の農地約2畝で主に野菜や果樹、水稻苗を生産するほか、交野市や三重・奈良県などにも農地を所有し、作業受託を含めて約8畝で水稻を栽培。生産物は農園内の直売所で販売するほか、宅配や大手スーパー・JA直売所にも出荷している。

政輝さんは大学では外国語を専攻してオーストラリアへの語学留学も経験。卒業後は一般企業に就職したが、いつかは家業を継ごうと思っていた。

父からは、これまでに一言も継ぐように言われたことはなかったものの、学生時代から農繁期には農業を手伝っており、農業が嫌いではなかった。

また、田んぼアートや泥リンピック、収穫祭の開催など、保次さんが地域の人たちを巻き込んで取り組んでいる各種イベ



新たに挑戦しているイチゴハウスで

ントも手伝った。楽しみながら農業を実践している父の姿を目の当たりにして、都市農業の楽しさや可能性に興味を持ち、就農を決断した。

今後は保次さんと共に、人との出会いを大切に作る顔の見える農業を実践する。当面の目標は、「就農して間もないので、南農園をひいきにしてくれる消費者や取引先の方々に、自信をもって説明や対応が出来るだけの知識や技術を身に着けることです」と語る。

(光崎)

# 夢は農家レストランなど 土にこだわり土を愛す

## 富田林市・乾裕佳さん

海老芋は10月20日から掘り出し、東京への出荷は12月15日で終わった。今は端境期だ。倉庫に保存していた小芋の根取り作業を始めると、冬の寒気の中に土の香りが漂い、大きくて綺麗な海老のしつぽが現れた。生家で本格的に農業を始めて9年

が経つ。父が体調を崩し、親戚の応援も得てトラクターなどの操作も懸命に覚えた。農地はもともと30㍏程度。それが借地で2畝となり、彼女が農業を始めてから3畝になった。ナス、キュウリの一大産地



借りた農地で新しい試みも

なのに農業を辞めていく人が増えていく。「何年もかけて土づくりをしてきたのに一瞬でコンクリートに変ってしまうのはもったいない」「先祖からの農地を引き継いでるか

らこそ今があるんですよ」「後世にこの素晴らしい農地を残したい。子どもが嫌というなら志のある人にも構わない」。矢継ぎ早に話す彼女の言葉はきわめて明快だ。

「面倒だと思つたらいいものは育たない」。このこだわりのため、様々なデータ収集と経験や勘を融合させることを大事にしている。従業員を雇用し始めて経営の勉強もした。職場環境が大事だとも自覚。働く環境を整えることと同居なら、GAP認証も目指す。

自分が輝ける場所は？との質問に、「借りたハウスで違った作物を作っているときかな」。ロシア料理のひ



とつであるボルシチには欠かせない野菜「ビーツ」やフルーツトマトも育て始めた。主には直売所に出荷するが、噂を聞いて仲買人が買ってくれる。「美味しいものを作りたいんです」。彼女の夢は仲間と農家レストランや直売所を作ること。

「PTAで異業種の方々とのおしゃべりも経営の参考になります」。お母さんの何か役に立ちたい」と長女が大学の農学部。嬉しそうに話す顔はいつの間にか経営者から母親に。

(鈴木)

..... (いぬい ゆか) 昭和50年生まれ。姉妹の長女。仕事の傍ら1男2女を育てる。短大を卒業して派米研修生としてハワイで水耕栽培を学ぶ。結婚して鹿児島へ。生家では約3畝で海老芋はじめ米、ナス、キュウリを栽培。「ビーツ」の栽培も始める。社員4人のほか、パート・アルバイト8人と実習生が3人。

# 就農者が地域農業を守る

## 枚方・穂谷地区で講演 北河内都市農業啓発事業

北河内地区農業委員会連  
合会(会長・中野利佑門真  
市農委会長)が、都市の農  
業の重要性と役割について  
消費者に理解を深めてもら  
おうと実施する都市農業啓  
発事業。38回目の今回は昨  
年11月27日に枚方市の穂谷  
公民館で「枚方市穂谷地区  
で活躍する新規就農者のお  
話」をテーマに開催した。

地元枚方出身で穂谷地区  
の棚田の遊休農地から農業  
を始めた大島哲平さん、埼  
玉県出身でテーマパーク運  
営会社に勤めていた阿部亜  
紀さん、東大阪の企業で新  
製品開発を担当する傍ら市  
民農園に出会ったのが就農  
のきっかけという新田育朗  
さんの3人が講演。北河内  
地区の消費者や農業委員・  
推進委員など約90人を前に  
就農までの経緯や、農業を  
始めて味わった喜びや苦労  
話などありのままを語った。

講演に先立ち、枚方市農委穂  
谷地区担当で、3人の就農をサ  
ポートしてきた岡本淳一委員が

## 4年で80㍓に規模拡大

### 新田育朗さん

箕面市出身で大学では応用生  
物学を専攻していた新田さん。  
「やりがいがあった、植物を扱  
える農業がしたい」とひらかた  
道場の門をたたいた。

平成28年の就農後、毎年20㍓  
ずつ経営面積を増やし、現在は  
80㍓になった。少量多品目で季  
節野菜を栽培しており、ズツ  
キーニやミニトマトなどが主な  
品目。一部の品目では大阪エコ  
農産物の認証も取得している。  
課題は、生産性の向上や販路



新田さん

経過を報告した。

農委では、かねてより市長へ  
の建議(農地利用等最適化推進  
施策等に関する意見)で新規就  
農者育成に向けた仕組み作りを  
要望。平成26年に市は、2年間  
の講義と実地研修を教育カリ

拡大のほか、獣害対  
策をあげ「美しい里  
山の自然がある反  
面、獣が畑に迫っていることを  
痛感した」と述べた。

## 仲間とともに地域農業を守る

### 大島哲平さん

講演の最後に登場  
したのが大島さん。

地元枚方市出身で穂  
谷の農家での研修を  
経て独立就農した。  
経営面積は150  
㍓で主な品目はホウ  
レンソウ、小松菜、  
ミニトマトなど。新  
規就農者共通の経営  
課題として、事業の  
継続や継承の問題、  
地域や社会との共存  
などを挙げた。

就農後、仲間との  
交流の場として、府  
やJAなどの協力を  
得て「きたかわち新  
鮮舎」を結成。このグループが  
地域農業の情報発信や出荷・販

キユラムとする「都市農業ひら  
かた道場」を開講した。

穂谷地区は「にほんの里  
100選」に選ばれた美しい景  
観を有し、昔ながらの集落の姿  
を残す里山。しかし、近年は農  
業者の高齢化と遊休農地の増加

## 当面の目標は農業で「納税」

### 阿部亜紀さん

「就農して4年ですが、まだ  
農業で税金払ってないんです。  
でも脱税じゃないですからね  
(笑)」と阿部さん。

大手企業で経理・財務関係の  
仕事をしていたが、農業体験農  
園への参加を契機に農業を志  
し、ひらかた道場を経て就農。  
約60㍓で黒枝豆や里芋などを栽  
培。年々ひどくなるイノシシに  
よる農作物被害や栽培技術向上  
と利益確保などが課題という。  
「農作物は奥深い。世の中に

路の確保など、さまざまな役割  
を果たしている。  
「農業をして地域の農地を守  
るには、一人の力だけでは限界  
がある。互いに協力し合う仲間  
が必要」と強調する。

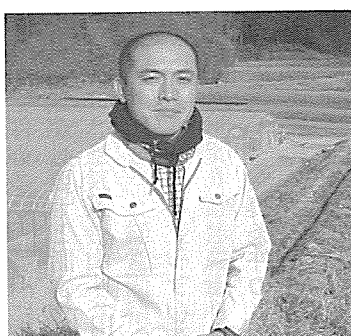
(北川)

が課題となっている。  
岡本委員は「道場に1期生と  
して入門したのが、新田さんと  
阿部さん。それ以前から就農し  
ていた大島さんともに、穂谷地  
区の農業を担い、美しい景観を  
守って欲しい」と期待を寄せた。

知られていないおいしいものを  
紹介し、身近にして食生活を豊  
かにしたい」と理想を語った。



阿部さん



大島さん

# 新時代

特集・新時代への期待

## 食と人の架け橋に 未来ある若者の応援も

岸和田市・花野真典さん

誉など、年間を通じて約30品目の季節野菜を栽培している。

「活動を通じて食と人の架け橋になれば」と話すのは、岸和田市土生滝町で「くじらのペンギンハウス」を運営する花野真典さん(41)だ。就農から約10年が経過し、現在は約90アールで春秋にリーフレタス、夏にズッキーニ、冬にニンジンに彩



「もっと食・農産物を身近に感じてほしい」と話す花野さん



「自分たちの姿を見て子どもたちが将来農業をやりたいと思えるような農園にしたい」と山本さん夫婦

モ(計45ア)に加え、ブルーベリーの栽培を始めたのは、真土さんがアメリカで農業研修を受けていた時に食べたブルーベリーの味に感動したことがきっかけ。「お客さんにも採れたての美味しさを味わって欲しい」と13年前に2本の苗木から夫婦2人でスタート

した。「自分も農園に貢献したい」という想いで留似さんが始めたブルーベリージャムづくりは、昨今の6次産業化ブームの先駆け。ジャムをふんだんに使ったかき氷とともに農園の名物として親しまれている。近年、イチゴやトマトの観光農園を始める若手農家も地域で増えており、観光農園を始めた際の苦労を知る山本さん夫婦は、「夏にブルーベリー狩りに来るうちのお客さんが冬にはイチゴ狩りに行ってもらうなど、新規就農者の手助けが出来れば」と話す。高齢化により遊休農地も出始めている地元で「空いている農地があればもっと経営面積を広げたい」と意気込む山本さん。農園の未来とともに、地域農業の将来を見据えている。(沼田)

## 農園と地域の将来を見据えて

富田林市・まーるいかんぱにー

「ブルーベリー畑まーるいかんぱにー」は、富田林市西板持にある約30アールのブルーベリーの観光農園。農園名は園主の山本

真土(まさと)さん(37)、妻の留似(るい)さん(35)の2人の名前から名付けられたものだ。先代から引き継いだナス、キウウリ、エビイ

取り組みの特徴のひとつが「援農ボランティア」の受け入れだ。年間50〜60人程度がほ場を訪れ、農作業を体験している。ボランティアは府民や近隣の大学生、新規就農希望者などさまざまで、若年層が多い。自作のパンフレットには年代別農業従事者割合が記載され、高齢化・担い手不足に伴う遊休

農地増加の現状など、知識のおみやげ付きだ。また、社会貢献活動は幅広く、ボルダリングやコーフポールといったマイナースポーツの活動支援、自主製作映画に俳優として出演する文化的支援など、「若手を応援したい」気持ちから様々な支援活動に取り組み。

住み家をなくしたペンギンがくじらの上で生活する。そんなあつてはならない事を実現させるために「くじらのペンギンハウス」を誕生させた花野さん。「農産物を成長させるだけでなく、未来ある若者たちの大切な心と身体を育む手助けができれば」と話す。(田村)



就農1年目イチゴ農家を視察

河南町長、千早赤阪村長ら



尾崎さん(中央)と、農地所有者の上田さん(右から2番目)とともに



岡本さん夫婦(左から2・3番目)を囲んで

府南河内農と緑の総合事務所、河南町、千早赤阪村、JA大阪南が連携して取り組む「いちごアカデミー」では、平成30年度に第1期生が研修を修了し、5人が就農している。12月11日、森井喜博同事務所

現場活動に女性委員の参画を

東海・近畿女性農委会研修会

11月27日、東海・近畿ブロック女性農委会の農業委員会研修会が京都市内・メルパルク京都で開催され、大阪からは女性農委会員・推進委員や農委事務局職員等13人が出席した。

記念講演では、にいがた女性農委会員の会会長の笠原尚美氏が「女性の力で進めよう！人・農地プラン」と題して記念講演を行った。

同市では意向把握のための経営状況調査での戸別訪問や、農地の斡旋の調整役など現場活動に女性委員も積極的に関与。

「苦勞も多いが、直接農

長、武田勝玄河南町長、松本昌親千早赤阪村長、中谷清JA大阪南組合長らが第1期生のイチゴハウスを視察した。まず訪れた千早赤阪村の岡本敦夫さん・愛さん夫婦は、先輩イチゴ農家である棟田真さんのもとで研修を受けて就農。松本村長、中谷組合長から質問が相次ぎ、「工程が数日ずれるだけでイチゴが駄目になるなど、農

作物の繊細さを実感した」と栽培上の苦勞話で応じた。続いて視察した河南町の尾崎誠さんは、福永洋一さんのもとで研修を受けて就農。武田町長、中谷組合長からの質問に対して、就農の動機や翌週に控える初出荷に向けた意気込みなどを話した(12面に関連記事)。(沼田)

このほか、全国農業会議所から農地利用の最適化の推進と女性委員の役割について、農業者年金基金から制度と加入推進について情報提供があった。(沼田)

さらに、女性同士で意見交換できる場を設ける、6次産業化や食農教育など女性が活躍できる機会の充実を図るなど、多様な形で女性の活躍のきっかけを探って欲しいとした。

その後は、グループ単位でのワークショップを実践。付箋と模造紙を用いて、地域や農業の将来について活発な意見を交わした。



開会挨拶するきょうと女性農委会員・推進委員の会の山下会長

月間農政ファイル

11・21～12・20

12・3 自治体による市街化調整区域での土地区画整理を可能にする改正構造改革特区法が、参議院本会議で可決、成立。また、新規就農者などが同区域内での農地付き空き屋を取得しやすくした改正地域再生法も同時に成立した。

12・4 政府は、日米貿易協定を参議院で可決、承認した。牛肉・豚肉などはTPPと同様に関税を削減。1月発効の見通し。

12・10 政府は、農林水産業・地域の活力創造本部の会合を開き、「農業生産基盤強化プログラム」を決定した。中山間地域や中小、家族経営を重視する表現も盛り込まれた。

12・13 政府は、今年度補正予算を閣議決定した。農林水産関係費は5849億円を確保。うち、日米貿易協定発効にかかる国内対策費は3250億円を計上した。

### 第45回常設審議委員会

大阪府農業会議は12月17日、大阪市内・J Aバンク大阪信連事務センターで第45回常設審議委員会を開いた。

第1号議案の農地法第4条及び第5条の規定に基づく意見聴

取に回答する件(高槻市、茨木市、和泉市、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、堺市、河南町、河内長野市、松原市、羽曳野市、八尾市、東大阪市、枚方市、交野市農業委員会会長) 37

### 委員研修各地で

11月から12月にかけて府内各地で農業委員会研修が行われた。農業会議が出席し情勢報告した研修会は次のとおり(①開

催日、②開催場所、③農業会議事務局出席者)。

○吹田市農委(吉田俊之会長)  
①11月29日、②同市役所、③北川次長兼総務課長兼農政課長

○泉南市農委(中野吉次会長)

件(9万3672平方メートル)を許可やむを得ないと認め、回答することを議決した。

事務局からは、「新たな総合的土地政策」および「農業生産基盤強化プログラム」について報告した。

回答の内容は次のとおり。

【第1号議案】		
件数	面積(平方メートル)	
第4条	8	7605
第5条	29	8万6067
合計	37	9万3672

(農地区別別件数は、3種農地13件、2種農地23件、農用地区域内農地1件)

①12月6日、②同市役所、③鈴木専務理事兼事務局長

○貝塚市農委(永橋啓一会長)  
①12月9日、②同市職員会館、③北川次長兼総務課長兼農政課長

○富田林市農委(中谷清会長)  
①12月9日、②同市役所、③鈴木専務理事兼事務局長

○茨木市農委(大上眞明会長)  
①12月19日、②同市役所、③北川次長兼総務課長兼農政課長

### 農業者年金新ロゴ決定

(独)農業者年金基金が、新たな加入推進用ロゴマークを作成した。

新たなロゴマークは、農業者年金の略語「のうねん」をデザイン化したもので、農業者年金の加入を通じて「農業(農家)を応援」したいという意味合いも込められている。

今回のロゴマークの刷新は、都道府県段階の各業務受託機関から要望が挙げられていたことによるもので、今後、加入推進におけるパンフレット、チラシなど、各種広告媒体の活用が期待される。

(中島)

### 地区職協 各地で

三島地区農業委員会職員協議会担当者が12月2日、茨木市役所で開かれ、同地区の農委職員など13人が参加した。

会議では、農業委員会委員の改選に向けた検討状況等について情報交換が行われた。

南河内地区農業委員会職員協議会担当者が12月20日、藤井寺市役所で開かれ、同地区の農委職員など12人が参加した。

会議では、都市農地の貸借の円滑化に関する法律による貸借事例の検討や農地賃借料の基準改定、農業委員会委員の改選に向けた検討状況等について情報

(田村)

### 府担い手協幹事会開く

大阪府担い手育成総合支援協議会(会長・鈴木成大阪府農業会議専務理事)は12月11日、大阪市内で幹事会を開き、このほど実施した大阪版認定農業者計画達成状況アンケートの集計結果と今後の取りまとめに関して協議した。

(田村)

### 風速計

晴れた日にちらつく粉雪が、きらきらと輝いている。山から風に乗ってやって来たのだろうか。いにしえの人たちは、深く、はかなく消えてしまう雪のかけらを、花

びらに例えて「風花」と呼んだ。一瞬の命のきらめきを連想させる美しい言葉。「いまありし日を風花の中に探す」橋本多佳子。山を越えて吹きつける下降気流で有名な静岡県(遠州のからっ風)や群馬県(上州のからっ風)でよく見られるが、この風は強い。強風といえば、海水が攪拌されて作られた泡が、強い海風に吹かれて吹き寄せられるのが「波の花」だ。松本清張の小説「ゼロの焦点」の舞台となった能登金剛は「波の花」の名所だ。同じ風に乗る花でも、こちらは冬の荒れ狂う日本海の風物詩である。「雲たれてひとりたけれる荒波をかなしと思へり能登の初旅」清張◆明けて令和2年。今年はどんな風が吹き、どんな花が咲くのだろうか。逆風や荒波にも動じず、それでいて冷静に事態を見つめ、しなやかにキラリと輝く。そんな風な一年でありたいと思う。(鈴木)



# 本年も全国農業新聞を

## よろしくお願ひします

新年あけましておめでとうございませう。

昨年は全国農業新聞の普及推進にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

全国農業新聞では、昨年を実施しました記事アンケートの結果を踏まえた紙面改訂(経営面などの充実)や発行形態の変更

(8頁オールカラー化)などを4月から実施する予定です。

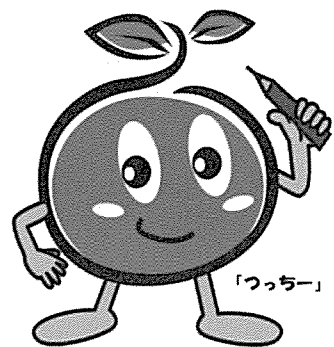
また、7月には多くの農業委員会で改選があります。農業委員・推進委員の皆様読など、本年も全国農業新聞を引き続きよろしくお願ひいたします。

(北川)

# 2020年 農林業センサスにご協力ください

農林水産省・大阪府・市区町村では、2月1日現在で「2020年農林業センサス」を実施します。農林業センサスは、農林業の実態を明らかにし、国や都道府県、市区町村は

もちろん各方面にわたり、広く利用できる総合的な統計資料を得るための調査です。全国の農家や林家をはじめ、すべての農林業関係者を対象に行われる『農林業の国勢調査』ともいべきものです。皆様のお宅や会社等に調査員が調査に伺いましたら、ご協力をお願いします。(大阪府総務部統計課提供)



# 随 想

令和元年も、豚コレラ、日米貿易協定、数度の自然災害と、農業界には深刻な問題が続いたが、今回は新年にあたり明るい話題を。府内に優秀な農業者が点在していると実感している応援団として、ぜひ考えてみてほしいことがある。府内産農産物を使った、大阪ならではの「食ブランド」の創出だ。

都市化した大阪で、特定品目の産地化が可能な地域は限られている。現在も多様な農産物を「大阪産(もん)」の統一ブランドでPRしているが、さらに一



農業ジャーナリスト 榎田 みどり

## 大阪産(もん)で、ぜひ大阪「食ブランド」も!

工業都市。ただし、キャベツ、トマト、大葉、うずらの卵・・・と多様な生産者が点在し、市町村別の農業総産出額で全国トップ10に入る。この多様な性は、市場流通では不利でも、域内流通では有利に働く。

品を各社が商品化し、「初恋レモン」ブランドとして育てるプロジェクトが2008年から始まっている。現在は15社が参加し、「初恋レモン餃子」「初恋レモンケーキ」「初恋レモンピール」など

その中で、柑橘産地ではない豊橋市で無農薬無化学肥料レモン栽培に成功した河合果樹園と、地元ホテル・飲食店・食品メーカー・菓子店などが連携。このレモンを使った料理や加工

高村光太郎が妻・智恵子の死を綴った「レモン哀歌」にちなみ、智恵子の命日の10月5日を「レモンの日」、島崎藤村の詩「初恋」が発表された10月30日を「初恋の日」と命名し、10月には各社一斉にフェアを開催するなど、イメージ戦略も巧みだ。

つまり、多様な商品を「初恋レモン」というコンセプトで一本化する事で、豊橋ブランド化に成功しているわけだ。その後、他品目の生産者と連携した「豊橋百農人」プロジェクトも誕生している。農業者個人での六次産業化も

◇筆者の紹介(さかきだ みどり) 農業ジャーナリスト。明治大学農学部客員教授。農業・食・環境問題の分野で一般誌・農業誌などで執筆。農水省「都市農業の振興に関する検討会」委員、「全国優良経営体表彰」審査員などを歴任。

# 初出荷



羽曳野市・藤井さん



千早赤阪村・岡本さん夫婦



河南町・尾崎さん

河南町 尾崎誠さん

平成29・30年に新規就農「はじめの一步」村に参加。知れば知るほどイチゴの魅力に引き込

まれ、いちごアカデミーを経て昨年2月に就農。8坪のハウスで紅く色づいた紅ほっぺは、12月下旬から初出荷。「クリスマス商戦を機に忙しくなるが気を引き締めて頑張りたい」と決意を新たにす。

## 千早赤阪村

岡本敦夫さん・愛さん

「子どもからお年寄りまで喜んでもらえるイチゴを作りたい」と一念発起した岡本さん夫婦。1年の研修を終え、一昨年11月に就農。10坪のハウスで高設栽培を行う。「周囲の方々のご協力あつての今」とご夫婦。二人三脚で育て上げたイチゴは12月下旬に無事初出荷を迎え、「安心」と胸をなで下ろす。

## 羽曳野市

藤井貫司さん

ハウス内ポット栽培導入による「冬イチジク」出荷に挑戦。道の駅「白鳥の郷」と「よつてつて羽曳野店」にて販売を開始した。自身の直売でも予約販売する予定で、「梶井ドーフイン」以外でも試験栽培中。品種を数種類取り揃えて差別化を図り、周年安定した供給が出来るようにしたい」と話す。

(沼田・中島)

# ゆず収穫



11月から12月にかけて箕面市止々呂美地区で「ゆず収穫サポーター隊」が活躍した。同市が高齢等で収穫できないユズ農家を支援

するためにはサポーター制度を開始したのが平成22年。10年にわたり収穫を支援してきた。今年度は11日間実施。止々呂美ゆず生産者協議会の指導のもと、近隣の大学生グループや子連れの主婦など、延べ79人がユズの大きなどに注意しながら収穫作業にあたった。(田村)